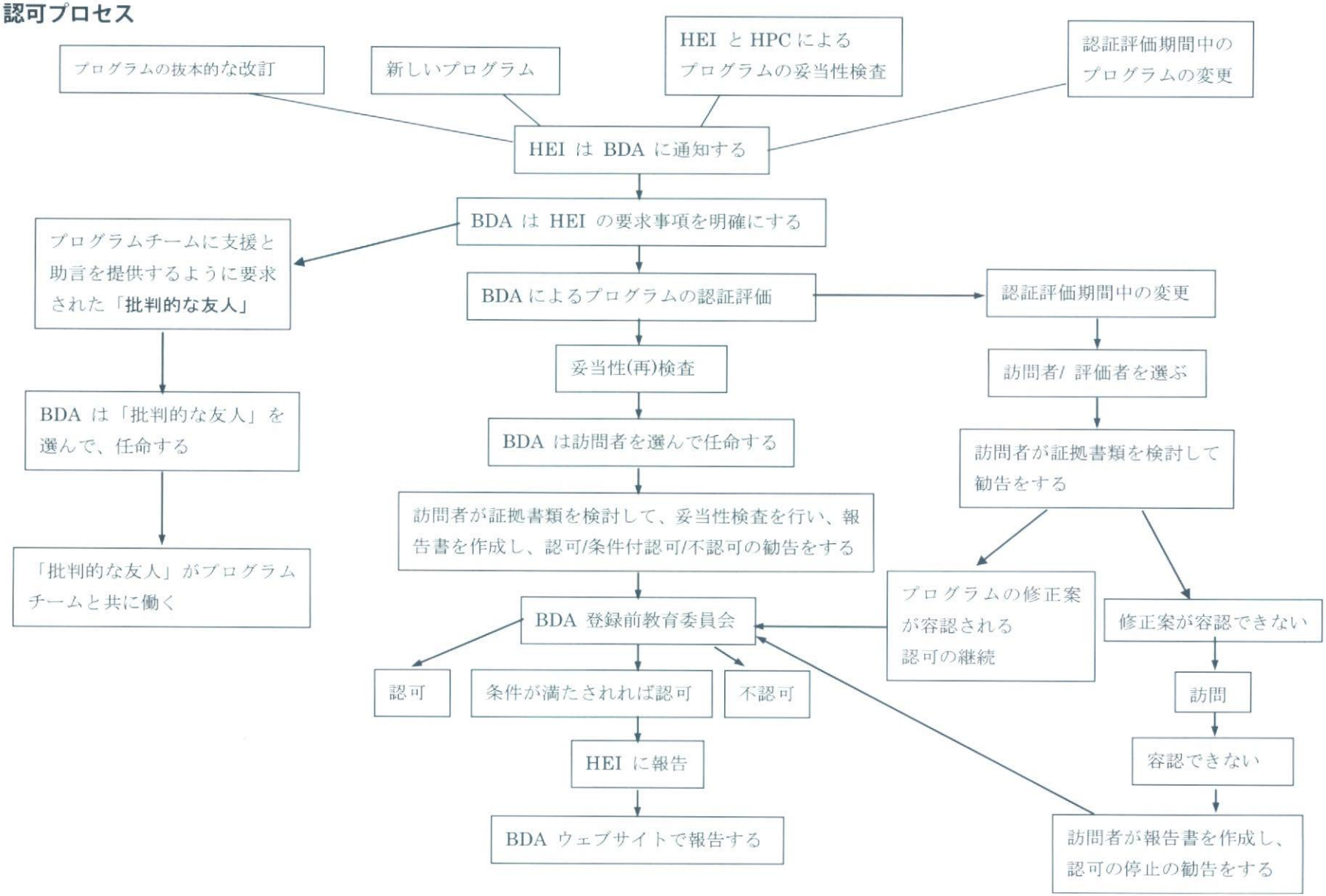
付録２ － 認可プロセス


プログラムの抜本的な改訂
新しいプログラム
HEI と HPC による
プログラムの妥当性検査
認証評価期間中の
プログラムの変更
HEI は BDA に通知する
BDA は HEI の要求事項を明確にする
プログラムチームに支援と
助言を提供するように要求
された「批判的な友人」
BDA は「批判的な友人」を
選んで、任命する
「批判的な友人」がプログラム
チームと共に働く
BDA によるプログラムの認証評価
認証評価期間中の変更
妥当性(再)検査
BDA は訪問者を選んで任命する
訪問者が証拠書類を検討して、妥当性検査を行い、報
告書を作成し、認可/条件付認可/不認可の勧告をする
BDA 登録前教育委員会
認可
条件が満たされれば認可
不認可
HEI に報告
BDA ウェブサイトで報告する
訪問者/ 評価者を選ぶ
訪問者が証拠書類を検討して
勧告をする
プログラムの修正案
が容認される
認可の継続
修正案が容認できない
訪問
容認できない
訪問者が報告書を作成し、
認可の停止の勧告をする

資料　専門用語　一覧

用語	訳語	意味
Critical friend	批判的な友人	批判的な友人はその仕事の成功のために、挑発的な質問をする人、もう１つのレンズを通して考察されるデータを提供する、そして友人として人の仕事の批評を申し出る信頼できる友人（Andrew Hutchinson によって１９９８年に作られた用語）
Patient partnerships	患者パートナーシップ	英国政府が打ち出した医療に関する方針。保健ケアサービスの計画や提供において、NHS が患者を参加させる、患者や業務利用者の経験や意見を積極的に聞き入れ、業務改善や将来の業務開発するために使う、医療専門家一緒にと患者が患者自身のケアに対して積極的に参加するなどのシステム。
expert patient	熟達患者、エキスパート患者	闘病経験と専門職能力を有する患者。確信があって、自分の生命コントロールができるように感じ、医療専門家との協力して自らの症状とその処置にうまく対処することを目指し、効果的に専門家と話し合い、そして責任と治療を共有することをいとわない。自身に対するの病気の影響について現実的で、彼らの家族は患者が完全な技能と生活を送る知識を使う。
critical appraisal	批判的吟味	研究の行なわれた方法の妥当性とそこで示された結果の信憑性、臨床的重要性を検討すること
systematic reviews	系統的レビュー	・系統的レビューは，評価研究を見つけ出し，選別し，吟味し，分析するために，科学的で客観的で方法を用います。このような厳密な方法を用いる，系統的レビューは，特定の問いに関し，科学が与えることのできるもっとも信頼できるエビデンスを与えます ・文献をできるだけ網羅的に検索し、それらが最良の科学的根拠かどうかを評価し、複数の科学的文献の結果を統計的に統合
meta-analysis.	メタアナリシス、メタ分析	メタアナリシスとは、過去に独立して行われた複数の臨床研究のデータを統合して、統計を行う手法である。採用するデータは、信頼できるものにしぼり、それぞれに重み付けを行う。
"Logical Thinking/Critical Reasoning "	論理的思考	論理的思考とは、明確な根拠に基づき結論を導き出す思考方法の総称
reflective practice	省察的実践	行為がおこなわれている最中にも〈意識〉はそれらの出来事をモニターするという反省的洞察をおこなっており、そのことが行為そのものの効果を支えているとするドナルド・ショーンの議論
Reflection in action	行為の中の省察、行為における省察、事中反省	・現在行っている自己の行動やそれに対する反応をモニタリングし，調整する活動 ・行為の中に暗黙に働く知を持っており、状況と対話して行為しながら考える ・新しく直面した不確実な問題状況に対処し、状況を変容させるべく、状況との対話をしながら行動していくという考え方
Reflection on action	行為の後の省察、行為についての省察、事後反省	・自己の学習経験の結果（思考パターン）について，重要なイベントに立ち返ってモニターする活動 ・行為について振り返り、瞬時に行われた行為の意味を対象化して検討する
		・事例検討等自らの実践行為について相対化するなかで何かを発見すること
Clinical audit	臨床監査	「臨床活動の質に対する系統的ならびに批判的解析」を行なうもの
clinical reasoning	臨床推論 / 臨床的推論	" 臨床的推論は , 患者が抱える問題の原因 , 最適な治療方法 , 治療がどのように効果的であったかを正しく決定する技能の名称である。臨床的推論は問題解決の技術、推論、情報の分析または解釈 , そして発見する内容や結果を予測する能力を含む "
Quantitative research / Qualitative Research	質的研究 / 量的研究	数値化されないものに関する研究 (原因や理由、方法など) / 数値化できるものに関する研究 (統計的なもの)
Quantitative information / Qualitative information	質的情報 / 量的情報	数値化できないものに関する情報 / 数値化された情報・数値ができるものに対する情報

用語	訳語	意味
evidence	エビデンス / 科学根拠	・エビデンスとは、意志決定や判断、問題解決に用いられる事実やデータの集積である
evidence base	事例データ / 証拠データ / 証拠基盤 / 根拠基盤 / エビデンス基盤 / 基礎となる実例集	
behaviour change	行動変容	・『行動変容』という用語は、もともとが、行動理論や行動療法を指す "behavior modification" の訳語であり、一方、近年 "bahavior change" という用語が健康行動研究でも広まっている。米国においては、"behavior modification" の内容も含めて、これらの上位概念として、"bahavior change" と呼ばれている。しかし、わが国において、『行動変容』という用語が慣用的に使用されているため、"change" を『変容』と訳している。つまり、以前は "bahavior change" と "behavior modification" を分けるために,「行動変化」という言い方をあえてしたのだが、わが国においては、「行動変容」のほうが用語として一般に使われる頻度が高いために、"behavior change" も「行動変化」ではなく「行動変容」とした。「行動変化」と「行動変容」とは同じものである。 ・行動変容とは、習慣化された行動パターンを変えることを指す ・対象者の行動を変えようとする意図があらかじめ存在し、行動変容を生じさせるための働きかけを行いその結果行動が変化したかどうかをみていくものです
behaviour modification	行動変容 / 行動修正	・「Behavior Modification」は、どのようにすれば他人の行動を何らかの刺激によって変化させることが出来るかという心理学的療法。基本的に異常行動や反社会的行動をどのように修正させるかの理論 ・個人の外側にある目標や報酬を使って、相手に望ましい行動をとらしめるべく（目に見えた）行動に働きかけようとする
dietary history	食事歴	実際に食べたものを調べる食事調査
Dietary Guidelines	食事指針	
Dietary Reference Values	栄養摂取基準値 / 栄養摂取基準値	
health claims	健康強調表示	食品や食品成分による健康、疾病に対する効果等の表示
PROFESSIONAL ISSUES	" 専門職業上の問題 / 職業的諸問題 / 職業人としての学習 "	実務の理解や、職業倫理や社会的責任、法律など専門家として知っておくべきことを扱う科目や分野
Descriptive epidemiologic studies	記述的疫学	集団における疾病分布の特徴を、人、場所、時間に関する正確な記述に基づき、疫学的な特性を明らかにしたり、疾病の発生要因に関する仮説を設定する、ことを目的とする
analytical epidemiology	分析的疫学	" 記述疫学で推定された仮説の妥当性を検証する為に行う "
nutritional epidemiology	栄養疫学	食事と長期間の健康状態や病気との関係を調べ，理解することを目的とする研究分野を指す
Social nutrition	社会栄養学	食事とこれらがどのように人々の栄養に影響を与えるかの社会の、文化的な、宗教的な、経済の、そして政治的な局面に焦点を合わせた学問
Public Health Nutrition	公衆栄養学	人々の健康の保持・増進、QOL の向上を図ることを目的とし、これを達成するための公衆栄養活動（実践）に必要な知識と技術を、主として栄養改善に関する側面から考究する学問
subject benchmark statements	分野別学位水準基標	QAA が、分野ごとに「最低到達基準」と「標準到達基準」「最高到達基準」について、分野に固有の知識・技能と分野にかかわらず全ての分野で必要な知的能力と汎用的技能から構成されるラーニング・アウトカムズを設定。
partnership, cooperation, working with	協働	相互の自主性・主体性を尊重し、互いに理解し合い、役割・責任分担しながら、共通の目的・目標に向かって連携・協力し、相乗効果を上げていくこと

用語	訳語	意味
accreditation	認証評価、基準認定，適格判定	第三者機関による高等教育機関が基準を満たしているが否かの評価
	認定評価	教育評価の一つ。生徒の成績、学習の成果を評価するもので、尺度の取り方からいうと絶対評価に当たる
awards		高等教育レベルの学業に対する資格。学位（degrees）とその他の資格（certificates, diplomas など）
career path	キャリアパス	"仕事の経験を積みながら次第に能力・地位を高くする順序や、そのための一連の職場や職種。あるいはその目的のための職場を異動する経歴のこと。" 自分の仕事において、過去の職歴から現在の職務を通して今後の希望や予想による職歴まで一貫して俯瞰するためのキャリアプラン
cluster	クラスター	技術・生産・研究・人材教育・資金・情報等を提供する機関がぶどうの房状に連結・集積している地域
agency	独立した行政執行機関	
statutory bodies	法定機関・法定団体	それぞれ個別の法律に基づき設立された法人で、機動的に国の政策を実施することが期待される機関である
professional bodies	職能団体	法律や医療などの専門的資格を持つ専門職従事者らが、自己の専門性の維持・向上や、専門職としての待遇や利益を保持・改善するための組織である

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業）
保健・医療サービス等における栄養ケアの基盤的研究
分担研究報告書

豪州国の大学・大学院における栄養専門職の先進的な教育事例に関する研究

協力研究者　五味 郁子　神奈川県立保健福祉大学講師
Charlette Gallagher-Allred
International Health Consultant
松本 菜々　ミネソタ大学大学院生
研究代表者　須永 美幸　聖徳大学准教授

研究要旨

豪州国の栄養専門職養成は、豪州国栄養士会が示す初級レベルの専門職に必要とされる能力基準を達成目標として明示することにより養成の質を確保している。昨年度の研究結果を踏まえ、わが国の望ましい栄養専門職養成制度、ならびに生涯教育を含めた人材育成体制を構築するための基礎資料を得ることを目的に、教育カリキュラムと課題ならびにメンター制度についてインタビュー調査等により分析した。

その結果、豪州国の栄養専門職養成制度は、米国のインターンシップに相当するメンターシップと、生涯教育に位置づけられた上級レベルの実践活動を格付けする人材育成体制により質の確保が図られていた。教育カリキュラムの課題とされるマネジメント、個人開業、研究及び科学的根拠に基づいた実践活動が強化され、栄養士の活躍の場と養成数が増加している一方、実践経験を積むための研修施設が不足していることが現在の課題である。ウーロンゴン大学・大学院の教育事例を調査分析した結果からもインターンシップの重要性が示された。わが国でもインターンシップ制度や専門性を高めるための連携体制を推進することが今後望まれる。

A．研究目的

豪州国の大学・大学院における栄養士養成プログラムは、豪州国栄養士会（Dietitians Association of Australia, DAA）が示すガイドラインに準じてDAAの承認を得て構築される。栄養士（dietitian）を含む医療専門職は、「登録証」だけでなく専門職としての実践能力の基準を明示し、栄養士初級レベル能力基準（National Competency Standards for Entry-Level Dietitians）により養成の質を確保している。さらに、DAAは生涯教育として提供するAPDプログラムに卒業後のメンターシップ（米国のインターンシップに相当）を組み込み、実践栄養士（Accredited Practicing Dietitian, APD）を認定するとともに、上級レベルの格付けによる人材育成体制を構築して社会的な信用を得ている。

そこで、わが国においても管理栄養士の望ましい人材育成体制の基盤整備のための基礎資料を得ることを目的に研究を行った。

B．研究方法

豪州国における栄養専門職養成制度の概要、及び生涯教育に関する情報は、インターネット上で検索し、DAA のホームページを中心に公表されている資料から調査した1)。その結果に基づいて本年度はインタビュー調査を行った。インタビューの回答者は、ウーロンゴン大学の Linda Tapsell 教授（Director National Centre of Excellence in Functional Foods, University of Wollongong）である。インタビュー者は、管理栄養士免許保持の2名である。調査内容は、メンター制度とその意義、現在の栄養士教育の課題を明らかにするとともに、ウーロンゴン大学の教育事例について調査分析した。インタビューは2008年9月10日、横浜にて実施した。9月7日の第15回国際栄養士会議のシンポジウムにおいて「豪州国における将来の栄養士像（Education of Future Dietetic Professionals)」をテーマに行われた Sandra Capra, University of Queensland, Susan Ash, Associate Professor, School of Public Health, Queensland University of Technology, Brisbane Chair of Dietetic Standards of Dietitian Association of Australia)の発表内容から一部を引用した。なお、インタビュー調査結果は、掲載にあたり回答者に掲載の許可を得ている。

（倫理面への配慮）

本研究は、教育事例に関する調査であり、倫理委員会を必要とする個人情報に関わるものではなかった。

C．研究結果

DAA の会員数は 3,600 人と小規模であるが、ビジネス、個人開業やマーケティング分野で活躍し、人口の高齢化に伴い、医療分野では急性期病院のケアから慢性期疾患のマネジメントに移行し、栄養士による栄養・食事サービスを必要とされている。現在の雇用統計は、病院 32%、個人開業 21%、地域 11%であり、他の医療専門職より個人開業の需要が高くなっている。

栄養士教育プログラムの数は、2003 年の 9 大学 12 プログラムから、2008 年には 13 大学 21 プログラムに増加している。DAA による初級レベルの実践能力基準は、養成の認定に用いられるだけでなく、継続教育による専門能力開発にも活用される。DAA は、現在のプログラムの教育能力と学生の技術には、マネジメント能力及び科学的根拠に基づいた研究・実践能力が不十分であるとして必須科目と技術を強化している。

米国と比較してみると、認定実践栄養士 (APD) は登録栄養士 (RD) に、上級レベル実践栄養士 (Adv APD) は高レベル実践栄養士 (ALP) に相当し、特別会員（Fellow）は両国で存在するが、認定栄養学士（nutritionist）は米国には存在しない。「dietitian」や「nutritionist」には法的な保護がなく、「登録」もなかった。英国の「登録」栄養士は、「栄養科学者」と「生化学者」のように明確に区別されているが、豪州国の「dietitian」と「nutritionist」の名称は独占ではなかった。

豪州国の栄養士制度は、医療専門職の中で初めて実践能力に基づいた教育に移行した歴史があり、栄養実践者へのインタビューに基づく研究方法論により専門の実践活動が明確にされた。この方法論は、高レベル実践栄養士（APDs）と特別会員の実践能力基準にも応用されている。卒業生はあらゆる業務を遂行し、かつ安全に実践でき、公衆を保護するために実践能力の認

定基準を設けて教育されている。教育のアウトカムに重点をおき、専門職の将来展望とチャレンジにつなげるため、一般栄養士の基礎教育に基づき実践業務範囲を拡大し、継続的なキャリアアップを促している。1年間に約300人のAPDが養成され、資格を維持するためには継続学習が不可欠である。現在の栄養士教育の課題は、①4年生で監督下の実践経験を積む場が少ないこと、②病院ではなく、卒業後に就職を希望する個人開業の実習の場が必要であること、③実習の場は全て継続教育やアウトカムに基づいた実践をしているとは限らないことであった。

D．考察

ウーロンゴン大学の栄養士養成プログラムは、高等教育に位置づけられている。栄養士養成にはスーパーバイザーの監督下における研修が重視され、栄養食事療法の理論と実践を統合することを目的とした研修施設の確保が課題となっていた。このことは米国や英国でも同様であった。カリキュラムでは、食事療法学に加え、地域栄養学や個人開業、組織マネジメント等を強化し、大学院では、コミュニケーションスキルの向上及び専門実務研修が重視されていた。研修内容は、周辺地域の大学が研修評価グループを組織し、研修マニュアルを作成していた。研修評価票は、研修時間ではなく、初級レベルの実践能力を満たしているか、満たしていないかの2項目の評価であった。大学側の研修コーディネーターは、週の1/2を大学に、残りを上級栄養士として勤務し、栄養士の専門性を保ちながら、大学と臨床現場の調整能力が要求されていた。このような勤務形態は、大学の授業で実践業務の症例を検討できる機会を与え、学生のモチベーションを高めると考えられる。わが国でも臨床現場の非常勤講師による授業が展開されているが、さらに現場の管理栄養士の活用が望まれる。

栄養士養成コースを卒業・修了し、DAAの正会員となると、APDプログラムへの参加が義務付けられる。APDは、栄養士の資格を有し、かつ継続的に専門職としての能力を訓練し、標準的な実務を担い、その熟練度によって格付けされている。卒業後はAPDの認定前に1年間のメンタープログラムを完了しなければならない。これは米国のインターンシップに相当し、問題解決法やCPD活動等を修得する。一方、全てのAPDsはメンターになり、後進の指導・監督を通じて専門実践能力の向上を図り、上級APDにレベルアップする。生涯教育を必須としている点は米国と同様であるが、豪州国では生涯教育と実践登録栄養士の格付けが連動しており、栄養専門職の全体としてキャリアアップする体制が構築されていた。

E．結論

豪州国では、現場の栄養士の視点で、栄養士一人一人が自信をもって専門的役割を担えることを重視していた。その基礎となる能力を習得するために在学中にスーパーバイザーの監督下で800時間の専門実務研修を行っている。さらに、実践栄養士登録前にメンター制度により、登録後は能力の熟練度により格付けを行い、上級者が教育指導係になり、経験の浅い実践栄養士の専門性を確実なものにしていく。メンター制度は、職場で先輩が後輩を1年間の期限付きで一人前になるよう指導するシステムであり、能力による格付けはリーダーシップの育成を促している。わが国でも生涯教育を含めた人材育成体制として組み込むことが可能であり、専門性を高める連携体制の基盤づくりにおいても参考に値すると考える。

参考文献

1) University of Wollongong, School of Health Sciences, Faculty of Health and Behavioral Sciences: Submission to the Dietetics Standards and Accreditation Advisory Committee of DAA. Report on the University of Wollongong Dietetics Programs. Re-accreditation of Master of Science(Nutrition and Dietetics). Full Accreditation of Bachelor of Nutrition and Dietetics, Master of Science(Nutrition, Dietetics and Exercise Rehabilitation). 2006
2) Canberra, Charles Sturt, Newcastle, Sydney Wollongong Combined Universities: Dietetic Placement Manual. Clinical, Community/Food Industry, Food Service. 2005
3) University of Wollongong http://www.uow.edu.au/
4) 須永美幸、五味郁子：豪州国における栄養専門職の育成及び生涯教育に関する研究．平成19年度厚生労働科学研究費補助金「保健・医療サービス等における栄養ケアの基盤的研究」報告書：pp156-176. 2008

F．研究危険情報

該当なし

G．研究発表

H．論文発表

1. 須永美幸、堤ちはる、森奥登志江、市川陽子、榎裕美、五味郁子、三橋扶佐子、多田由紀、杉山みち子：諸外国における栄養専門職の育成・生涯教育制度 ―平成19年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業）保健・医療サービス等における栄養ケアの基盤的研究―より、日本健康・栄養システム学会誌 Vol.8, No.3, 2008.（印刷中）
2. 平成20年9月7日に日本栄養改善学会おいて口頭発表
   五味郁子、須永美幸：豪州国における栄養士の養成及び生涯教育のシステムに関する研究

I．知的財産権の出願・登録状況

該当なし

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業）
保健・医療サービス等における栄養ケアの基盤的研究
分担研究報告書

事例　University of Wollongong
豪州国　ウーロンゴン大学における栄養士研修の事例

五味　郁子　　神奈川県立保健福祉大学講師

1．はじめに

豪州国の大学・大学院における栄養士養成プログラムは、豪州国栄養士会（Dietitians Association of Australia, DAA）が示すガイドラインに準じてDAAの承認を得て構築される。栄養士dietitianを含むヘルスケア専門職は、「登録証だけが一人歩き」し専門職としての能力が伴わない過去の経験をふまえ、エントリーレベルの能力基準National Competency Standards for Entry-Levelが示されるようになった。1993年には、栄養士エントリーレベル能力基準National Competency Standards for Entry-Level Dietitiansについても明示され、栄養士の養成、現職栄養士の生涯教育など全般にわたって用いられている。

また、「登録証だけが一人歩き」する「栄養士」という名称ではなく、DAAによって認定された実践栄養士Accredited Practicing Dietitian, APDを重視する傾向が高まってきている。APDプログラムは、DAAが生涯教育として提供するものであり、栄養士養成コースとは別であるが、卒業後のインターンシップと関係するため解説する。

現在、豪州国国内にある38大学のうち、11大学にDAAが認める栄養士養成プログラムがある。ニューサウスウェールズ(NSW)州には、ウーロンゴン大学のほかにシドニー大学、ニューキャッスル大学がある。

2．ウーロンゴン大学（University of Wollongong）の栄養士養成コースの概要

ウーロンゴン大学の栄養士養成プログラムは、大学院2コースと学部1コースが設置されている。取得できる学位はそれぞれ栄養学修士MS c（Nutrition & Dietetics)、栄養・運動リハビリテーション修士MSc（Nutrition, Dietetics & Exercise Rehabilitation)、栄養学士Bachelor of Nutrition & Dietetics(BND)である。

学生は高校卒業時にUAI（Universities Admission Index）という学力水準値（1-100）が付与され、ウーロンゴン大学はUAIが95以上の高い学力がなければ志願できない。定員は学部（BND）15名、大学院25名である。この定員に対して、大学院コースの志願者は、2003年102名、2004年140名、2005年124名であり、合格率は20%前後と難関である。このうち大学院コースでは国外からの志願者・合格者はともに約50%を占める。栄養士養成コースの要となるのは、スーパーバイザーの監督下における研修であるが、研修が可能な施設は多くないため、大学はプログラムへの入学生を制限せざるを得ない状況にある。

ウーロンゴン大学における大学院コースの授業料は、国外学生は4セッション（2年間）でA $10,680（約70万円)、国内学生は96単位（2年間）でA $19,200（約125万円）である。国内学生は、政府から

の補助があり、多くてもその半分の金額を支払っている。さらに、高等教育貢献企画 Higher Education Contribution Scheme, HEADS として、栄養士として就職した後に給料から返金される政府奨学金もある。

4年間の学部コース（BND）のうち初めの2年は基礎化学や栄養学を主とするもので、3年次と4年次の専門科目は、大学院コース2年間のプログラムと相等しいものとなる（表1-3）。ただし、大学院コースは研究科目が24単位と学部（BND）の16単位よりも多くなる。表4は食事療法学 Dietetics（8単位）のシラバスであり、従来90時間で構成していた当該科目を、Dietetics 1（5時間× 13回 =65時間）と Dietetics 2（5時間× 13回 =65時間）の計130時間に現在変更している。栄養アセスメントや栄養補給法の臨床栄養学総論、疾患別の食事療法に加えて、地域栄養学 Community dietetics（4時間）や個人開業 Private practice（4時間）、組織マネジメント management of Dietetics Dept.（4時間）などを強化する形となった。大学院コース MS c（Nutrition & Dietetics）のカリキュラムをみると、栄養士の専門性は簡潔にみてとれる。すなわち、栄養素と代謝の知識に基づき、対人業務としてコミュニケーションスキルによって地域・公衆栄養、食事療法学、フードサービスの3領域においてヘルスケアに貢献するということである。また、専門知識とスキルの習得には、専門実務研修（計800時間）が大きなウェイトを占めていることがわかる。

ウーロンゴン大学には栄養士の資格を有するスタッフが、フルタイム教員5名、パートタイム教員3名、臨床教員2名、研究スタッフ2名おり、その他栄養士の資格を有さない14名の教員で栄養士養成コースを運営している。

3．専門実務研修　professional practice program

（1）概要

栄養士になるためには栄養食事療法の理論と実践を統合するためにスーパーバイザーの監督下で専門研修を受けなければならない。

ウーロンゴン大学では、学士コースも大学院コースも同じ研修プログラムである（表5）。専門実務研修は臨床、コミュニティ（地域）、フードサービスの3領域で行われる。臨床領域では、大都市型病院において学生2、3人チームによる研修を5週間、別の病院において個別に監督下で行われる研修を5週間、病院オリエンテーション2日、糖尿病患者の外来集団栄養教育セッション3日の計11週間の研修が必要とされる。また、コミュニティ（地域）領域では5週間、フードサービス領域では4週間、3領域で合計20週間（800時間）の研修が組まれる。

（2）専門実務研修マニュアル（以下、研修マニュアル）

NSW と ACT（NSW 州内のキャンベラを含む首都特別地域）にある5大学は、1995年に研修評価グループ Placement Evaluation Group、PEG を組織した。PEG は、臨床、コミュニティ、フードサービスにわたるコンペテンシー評価票を含む研修マニュアルを作成し、スーパーバイザーのためのワークショップを開催する。

コンペテンシー評価票は、DAA が示す栄養士エントリーレベル能力基準 National Competency Standards for Entry-Level Dietitians(1993) に基づいて設計されている。評価は、研修に費やした時間ではなく、あくまで栄養士エントリーレベルとしての能力の有無を評価

するため、「満たしている Satisfactory」「満たしていない Unsatisfactory」で評価される。コンペテンシー評価票は、臨床研修用に「臨床研修評価票 Clinical Practice Assessment Form」、「専門的能力の開発評価票 Professional Development Assessment Form」、「個人栄養カウンセリング評価票 Individual Dietary Counseling Form」、「小グループ栄養教育評価票 Small Group Education Assessment Form」の 4 種類、コミュニティ用とフードサービス用に各 1 種類、計 6 種類開発され、使用されている。

（3）スーパーバイザー

スーパーバイザイー（監督者）もしくは、プリセプター（個人指導者）は同義語である。栄養士養成コースの学生が行う計 20 週間の研修は、スーパーバイザーの監督下で行わなければならない。スーパーバイザーは、研修マニュアルに従って学生のコンペテンシー評価を行うのみでなく、学生が専門的に学べる環境を提供する責務を有する。研修マニュアルには、スーパーバイザーの責務として次のようなことが示されている：

- DAA 倫理綱領に従い、栄養士の専門家としてふさわしい行動をし、学生にそれを示す。
- 学生に課せられている事項や目標は期限・期間とあわせて明確に示す。
- 学生には様々な場面における栄養士業務について学習する機会を提供し、必要な説明を行う。
- 学生の研修過程を観察する。学生とミーティング等コミュニケーションの時間を適切に十分にとり、学生の学びを支援するフィードバックを行う。

（4）研修コーディネータ

ウーロンゴン大学では、栄養士の資格を有する Meredith Kennedy 氏を研修コーディネータと位置づけている。Meredith はウーロンゴン大学で 1/2 勤務、イラワラ糖尿病センターの上級栄養士として残りの 1/2 勤務にあたり、大学と臨床現場の橋渡しをする役目を担っている。

研修コーディネータは、大学と研修施設との契約のとりまとめ、研修に先立って学生の保険、犯罪歴や予防接種等を確認する。DAA ガイドラインに準じた研修プログラムが展開できるように、研修前後および研修期間中もスーパーバイザーや学生と電話、訪問などで密に連絡を取り合う。

研修コーディネータは、研修に係る事務的な用件、臨床研修の意義、臨床業務の実際を総合的に理解していなければ務まらないが、さらに、学生の人数分ある研修施設のスーパーバイザーや学生と個別のやりとりがあるため、栄養士の専門性を持ちつつ広範囲の調整能力を要すると考えられる。最終的な学生評価は研修コーディネータが行う。

また、ウーロンゴン大学では、聖ジョージ病院とリバプール病院に臨床教員 Clinical Educator を持ち、臨床領域における最初の専門実務研修はこの 2 病院で行うこととしている。

4．臨床研修

（1）研修病院

大学は、学生が臨床研修を行う医療施設と契約を交わしている。豪州国の多くの病院は、政府による公立病院 Public Hospital であり、ここでの診療費等は患者に請求されない。エリア・ヘルスサービス Area Health Service は政府のシステムにのっとった地域病院の総称である。実際には、エリア・ヘルスサービスのなかにネットワーク化した病院が複

数含まれており、これらの関連施設のなかでローテションして臨床研修を行う。豪州国には、プライベート病院も数箇所あるが、学生の研修はそこでは行われない。

（2）臨床研修の目的

5大学共同の研修マニュアル5章には、臨床研修の全体的な目的として次のことが示されている。

- 食事、生活背景、身体計測、医療データを収集、患者の栄養ニーズを評価する
- 適切な栄養管理計画をたてる
- 適切な患者教育とカウンセリング技術を発達させる
- 効果的なコミュニケーションと評価スキルを発達させる
- 栄養食事部門の一員として働き、他の病院スタッフと専門的態度で関わる
- 日々の業務におけるクリティカル・シンキングと評価のプロセスを学ぶ

以上をふまえ、臨床研修の終了時には、患者の個別栄養管理においてエントリーレベルの能力を達成することが臨床実地研修の目的である。ウーロンゴン大学では、2005年に大学院生および学部生計44名の学生を臨床研修に配置したが、合格したのは42名であり、2名は不合格となった。

学生は、様々な患者情報のなかで行う栄養アセスメントの実際を習得した上で、事例（受け持ち患者）を決めて、目標設定、ケア計画、患者あるいは家族への栄養相談、評価をスーパーバイザーの監督下で行う。学生は、これらの手順について診療録への記入も行うが、その際には署名に"学生 student"あるいは"栄養士研修生 Dietitian in Training"と併記し、スーパーバイザーのサインも得なければならない。診療録の記録はSOAP形式で行うのが原則であるが、日付と時間、栄養士シールまたは栄養士IDと連絡先、患者訪問の理由（例；Dr ○○の紹介で…）、患者の主観的情報、客観的情報、栄養摂取状況、栄養指導内容、栄養ケア計画、モニタリングの予定を記す。

11週間の臨床研修のうち、4～6週間では簡単な症例検討を発表でき、9週目以降には複雑な症例検討を発表できるようにならなければならない。その間、スーパーバイザーとは最低限、毎日の報告や話し合いを繰り返し、他職種とのコミュニケーション能力や時間管理能力、常に質の高い患者アプローチができるような能力を築いていくことが求められている。

5. メンタープログラム(インターンシップ)

栄養士養成コースを卒業・修了すると、栄養士としてのエントリーレベル能力基準 National Competency Standard for Entry-level Dietitian を達成したことになり、DAAの正会員となることができる。それと同時に、DAAはDAA正会員にAPDプログラムへの参加を義務付けている。APDは、栄養士の資格を有し、かつ継続的に専門職としての能力を訓練し、標準的な実務を担うことを承認する称号である。栄養士としての熟練度によって、仮APD（provisional APD）、APD（Full APD）、上級APD（Advanced APD）と分類される。

仮APDとなる卒業1年目は、新人栄養士というより学部5年生、修士3年生と表現する場合もある。仮APDがFull APDになるためには、1年間のメンタープログラムを完了しなくてはならない。これは米国のインターンシップに相当する。

「メンター mentor」とは、良き相談相

手、指導者・先輩を意味し、「メンティー mentee」が指導を受ける者をいう。学生は卒業したら5年目のポジションを自分で見つけなければならない。そして、その勤務先にいるFull APDをメンターとして、エントリーレベル能力基準に示される内容を超えた栄養専門職として実務を学んでいく。メンタープログラムで習得していく技術の例は、経験に基づく問題解決のテクニックや決断方法、結果の解釈方法、CPD活動、あらゆる場面におけるコミュニケーション法などである。

一方、全てのAPDはメンターになることを期待される。これには、栄養士という専門職への恩返しの意味と、後輩の専門職としての実務指導を行うことによって上級APDにレベルアップする意味がある。

6．おわりに

豪州国における栄養士養成は、政府ではなく職能団体として豪州国栄養士会DAAが生涯教育と一貫して実施している。この背景には、栄養士の能力を、単に学術的に費やした時間ではなく、栄養士に必要な技術能力で評価することを重視し、栄養の専門家として確実な知識と技術でヘルスケアに貢献することを追求しているためである。

豪州国の栄養士養成コースには、臨床領域11週間、コミュニティ5週間、フードサービス4週間、計20週間（800時間）の専門実務研修が組み込まれている。この研修は、栄養士の初級レベルに必要とされる能力competencyに基づいてプログラムされ、学生が評価される点は米国のインターンシップと共通するが、豪州国では学生コース内の専門実務研修は米国のインターンシップとは異なるものとしている。豪州国では、栄養士コース修了後、DAA会員すなわち栄養士となり、実践栄養士APDプログラム1年目に行うメンタープログラムをインターンシップに相当するとみなしている。

豪州国栄養士会DAAは、エントリーレベル能力基準Competency Standards（1993）のマネジメント及び品質改善活動の分野を1998年に強化し、これらの能力を栄養士になるために（学生中に備えるべき）必須のものと位置づけた。そのうえで、栄養士のインターシップで習得すべき能力として、問題解決のテクニックや決断方法、結果の解釈方法、生涯教育CPD活動、会議や交渉におけるコミュニケーション法を示している。ここに栄養士としての「能力」と区別して「専門性」があるように考える。このような専門性は、米国でも能力基準等に示されていないように、明文化は容易でない。豪州国では、現場の栄養士の視点で、栄養士一人一人が自信をもって専門的役割を担えるかを大切にしているかが伺える。能力を習得するための専門実務研修、そして専門性を習得するためのメンタープログラム（インターンシップ）はわが国においても参考に値すると考える。

7．参考文献

1）ウーロンゴン大学がDAAに提出した栄養士養成コース設置報告書・再認可申請書
University of Wollongong, School of Health Sciences, Faculty of Health and Behavioural Sciences: Submission to the Dietetics Standards and ccreditation Advisory Committee of DAA. Report on the University of Wollongong

Dietetics Programs. Re-accreditation of Master of Science(Nutrition and Dietetics). Full Accreditation of Bachelor of Nutrition and Dietetics, Master of Science(Nutrition, Dietetics and Exercise Rehabilitation). 2006
2) NSW 州 5 大学共同 栄養士研修マニュアル　Canberra, Charles Sturt, Newcastle, Sydney Wollongong Combined Universities: Dietetic Placement Manual. Clinical, Community/Food Industry, Food Service. 2005
3) ウーロンゴン大学ホームページ http://www.uow.edu.au/
4)　須永美幸、五味郁子：豪州国における栄養専門職の育成及び生涯教育に関する研究．平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金「保健・医療サービス等における栄養ケアの基盤的研究」報告書：pp156-176.　2008

表 1　栄養学士 Bachelor of Nutrition and Dietetics コースのカリキュラム

	科目名		開講	単位
1年次	管理概論	Introduction to Management	秋	6
	人体の成長、栄養、運動	Human Growth, Nutrition and Exercise	秋	6
	化学１Ａ－基礎化学	Chemistry 1A-Foundations of Chemistry	秋	6
	行動科学概論	Introduction to Behavioural Science	秋	6
	人体生理学	Human Physiology 1: Principles and Systems	春	6
	分子、細胞、組織	Molecules, Cells and Organism	春	6
	化学１B	Chemistry 1B: Structure and Reactivity of Molecules for Life	春	6
	統計学概論・演習	Introduction to Concept and Practice of Statistics	春	6
2年次	生化学	Principles of Biochemistry	秋	6
	人体生理学２　制御機能	Human Physiology 2: Control Mechanisms	秋	6
	食品化学	Food Chemistry	秋	6
	保健学	Promoting Health Lifestyle	秋	6
	食品・栄養の今日的課題	Current Issues in Food and Nutrition	春	6
	エネルギーと代謝の生化学	Biochemistry of Energy and Metabolism	春	6
	食事・身体活動の測定と評価	Measurement and Assessment of Diet and Physical Activity	春	6
	＜次から選択６単位＞			
	病態生理学	Pathophysiology	春	6
	先端栄養学 A	Nutrition and Food Innovation A	春	6
	健康政策	Health Policy	春	6
	疫学	Epidemiology	春	6
	マネジメント	Management of Change	春	6
	人材資源管理	Human Resource Management	春	6
3年次	地域・公衆栄養	Community and Public Health Nutrition	秋	8
	栄養素と代謝	Nutrients and Metabolism	秋	8
	人間栄養学調査	Research in Human Nutrition	秋	8
	栄養食事療法調査	Research Topics in Nutrition and Dietetics	春	16
	＜次から選択８単位＞			
	病態生理学特論	Advanced Topics in Pathophysiology	春	8
	先端栄養学 B	Nutrition and Food Innovation B	春	8
	先住民の健康課題	Aboriginal Health Issues	春	8
	リスク政策	The Politics of Risk	春	8
4年次	ヘルスケアにおける			
	コミュニケーション演習	Communication in Healthcare Practice	秋	8
	食事療法学†	Dietetics †	秋	8
	フードサービス・マネジメント	Food Services and Dietetics Management	秋	8
	栄養食事療法実践研究	Practical Studies in Nutrition and Dietetics	春	24
			計	192

†表４に食事療法学 Dietetics のシラバスを示した

表 2　栄養学修士 MSc（Nutrition & Dietetics）コースのカリキュラム

	科目名		開講	単位
1年次	* 地域・公衆栄養	Community and Public Health Nutrition	秋	8
	* 栄養素と代謝	Nutrients and Metabolism	秋	8
	* 人間栄養学調査	Research in Human Nutrition	秋	8
	専門プロジェクト	Major Project	春	24
2年次	ヘルスケアにおけるコミュニケーション演習	Communication in Healthcare Practice	秋	8
	食事療法学†	Dietetics †	秋	8
	フードサービス・マネジメント	Food Services and Dietetics Management	秋	8
	栄養食事療法実践研究	Practical Studies in Nutrition and Dietetics	春	24
			計	96
* 栄養学士 BS c（Nutrition）を有する者で、相当する科目が履修されていれば不要				
†表４に食事療法学 Dietetics のシラバスを示した				

表 3　栄養学修士 MSc（Nutrition, Dietetics & Exercise Rehabilitation）コースのカリキュラム

	科目名		開講	単位
1 年次	運動リハビリテーション 1	Exercise Rehabilitation 1	秋	8
	運動リハビリテーション 2	Exercise Rehabilitation 2	秋	8
	フードサービス・マネジメント	Food Services and Dietetics Management	秋	8
	運動サイエンス実習 A	Practicum in Exercise Science A	通年	8
	特殊集団における運動	Exercise in Special Population	春	8
	栄養食事療法課題調査	Research Topics in Nutrition and Dietetics	春	16
2 年次	運動サイエンス実習 B	Practicum in Exercise Science B	通年	8
	食事療法学 †	Dietetics †	秋	8
	運動生理学と食事指導	Exercise Physiology and Dietary Counseling	秋	8
	栄養食事療法実践研究	Practical Studies in Nutrition and Dietetics	春	24
			計	104
			† 表 4 に食事療法学 Dietetics のシラバスを示した	

表 4　食事療法学 Dietetics（8 単位）のシラバス

（旧）食事療法学	Dietetics	時間	（新）2008 年より	
			食事療法学 1	食事療法学 2
栄養士の役割	What Dietitians Do	2	2	
栄養アセスメント	Nutritional Assessment	2	2	
症例検討	Case studies and RR	2	2	
栄養士の専門性と能力	The Dietetics Profession and competencies	2	2	
ライフステージと栄養	Lifecycle nutrition	2	2	
栄養アセスメント演習	Nutrition assessment prac	2	2	
生化学検査の評価	Interpreting biochemistry	2	2	
薬と栄養素の相互作用	Drug nutrient interactions	2	2	
ﾒﾀﾎﾞﾘｯｸｼﾝﾄﾞﾛｰﾑと食事療法	Dietetics and Met Syndrome	2	2	
問題解決学習（PBL）	Problem based learning	2	2	
エネルギーの算出	Energy estimation	2	2	
高齢者・終末期ケア	Aged and Palliative Care	2	2	
心疾患	Cardiovascular Disease	2	2	
個人の献立計画	Menu Planning for individuals	2	2	
糖尿病の食事療法 1	Dietetics for Diabetes 1	2	2	
糖尿病の食事療法 2	Dietetics for Diabetes 2	2	2	
糖尿病の医学	Diabetes Medical	2	2	
静脈栄養／経腸栄養	TPN/Enteral Nutrition lecture	2		2
静脈栄養／経腸栄養　個別指導	TPN/Enteral –tutorial	2		2
心疾患の医学	Cardiovascular Medical	2	2	
栄養サポート	Nutrition support	2	2	
母乳栄養	Breast feeding	2	2	
消化器外科・術後	Gastro Surgical	2		2
消化器疾患の食事 1	Gastro diet 1	2		2
消化器疾患の食事 2	Gastro diet 2	2		2
消化器疾患の食事 3	Gastro diet 3	2		2
肝疾患	Livcr	2		2
癌	Oncology	2		2
神経内科・嚥下障害	Neurology and Dysphagia	2	2	
癌の医学	Oncology medical	2		2
クリティカル・ケア（ICU）の医学	ICU medical	2		2
クリティカル・ケア（ICU）	ICU	2		2
HIV/ エイズ	HIV/AIDS	2		2
食物アレルギー	Food Allergy	2	2	
炎症性腸疾患	IBD & IBS	2		2
肥満	Obesity	2	2	
腎疾患と医学	Renal medical	2		2
スポーツ栄養	Sport Nutrition	2	2	

（旧）食事療法学	Dietetics	時間	（新）2008 年より	
			食事療法学 1	食事療法学 2
セリアック病	Coeliac disease	2		2
腎疾患	Renal	2		2
腎疾患　個別指導	Renal tutorial	2		2
小児の腎疾患	Renal – pediatric	2		2
障害者	Disability	2	2	
摂食障害	Eating disorders	2		2
試験前まとめ	Exam preparation & course RV	2	2	2
地域栄養学	Community Dietetics			4
個人開業	Private Practice			4
栄養部門のマネジメント	Management of Dietetics Dept			4
呼吸器疾患	Pulmonary disease			2
緩和ケア	Palliative Care			2
菜食主義者	Vegetarianism		2	
重度肥満	More obesity		2	
栄養学における倫理	Ethical issues in dietetics			2
個別指導と症例検討	More Tutorials and Case studies		9	7
	計	90	65	65
			5h × 13 週	5h × 13 週
子ども病院（2 日）	Children's Hospital (2 whole days)	12	6	6

表 5　ウーロンゴン大学における専門実務研修の概要

臨床領域　11 週間		
	大規模都市型病院における学生 2-3 人チーム配置の監督下研修	
	（リバプール病院、聖ジョージ病院、ウーロンゴン病院）*	5 週間
	病院における個別監督下研修	5 週間
	病院オリエンテーションプログラム	2 日
	糖尿病外来患者の集団教育セッションの準備、実施、評価	3 日
コミュニティ領域　5 週間		
	個別配置	5 週間
フードサービス領域　4 週間		
	ヘルスサービスへの個別配置	2 週間
	グループコンサルタント業調査プロジェクト	1 週間
	フードサービスへの訪問、調理、TAFE** トレーニング	1 週間
	計	20 週間

*　ウーロンゴン大学の臨床教員 Clinical Educator がいる病院

**TAFE（Technical and Further Education）：オーストラリアの職業教育コースを主とする第三次教育。専門学校と類似。

Nutrition Care and Management
Vol.9 No.1
Printed in Japan
Copyright © 2009 by Japanese Society on Nutrition Care and Management

研究ノート

諸外国における栄養専門職の育成・生涯教育制度

－ 平成19年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業）
保健・医療サービス等における栄養ケアの基盤的研究 －より

須永　美幸[1)]　堤　ちはる[2)]　森奥登志江[3)]　市川　陽子[4)]
三橋扶佐子[5)]　榎　裕美[6)]　五味　郁子[7)]　多田　由紀[8)]
渡辺　智子[9)]　原田　雅子[10)]　杉山みち子[7)]

【研究要旨】　保健・医療サービス等における栄養ケアを担う管理栄養士の育成体制の基盤整備を行うことを目的とし，米国，英国，欧州の各国および豪州における栄養専門職の養成・生涯教育およびこれらの教育制度について，公表されている最新の既存資料等を調査・分析し，各国の現状と今後の動向を明らかにした。先進的な栄養ケア体制に取り組んでいる米国と英国は，栄養専門職の養成を栄養ケアの実践能力（competency）の育成を到達基準とした高度専門教育に位置づけ，計画的に養成プログラムを開発・推進し，さらに高度化する市場ニーズに対応した実践活動の質の確保・向上を図るため，生涯教育を義務づけていた。欧州域内でも教育改革と連動し，英国と同等の資格基準の統一が推進されていた。わが国の管理栄養士の人材育成，卒後教育，生涯教育を考えるうえで，国際的にも実践能力の到達基準を設け，学位取得を目的とした大学院教育（生涯教育を含む）の推進が求められる。

Ⅰ．研究目的

近年の予防重視型の保健・医療・福祉において栄養指導や栄養ケアを担う人材である管理栄養士の質および量の確保が課題となっている。本研究は，保健・医療サービスにおける栄養ケアの担い手である管理栄養士の教育養成および生涯教育（指導者育成を含めて）の体制，さらに望ましい栄養ケア体制について国内の現状および諸外国における状況を把握するとともに，その具体的な課題や将来像を明らかにし，保健・医療サービスにおける質の高い栄養ケア提供のためのマンパワー確保等の基盤整備を行うことを目的とする。本報告は，諸外国における栄養専門職の人材育成体制を調査分析・検討した。

Ⅱ．研究方法

諸外国の栄養専門職の養成・生涯教育およびこれらの教育体制に関する実態調査は，インターネット等を通じて公表されている最新の既存資料および文献等を収集し，その内容の分析を行った。

Ⅲ．研究結果

1．米国

米国においては，先進的な栄養ケアの実践活動とそれを担う栄養専門職の育成が一体となって行われてきた。

栄養専門職の資格付与および認定・登録は，米国栄養士会の教育公認委員会および登録委員会の管理運営により行われている[1,2)]。教育公認委員会は，大学・大学院における教育養成の質の維持と向上のため，養成プログラムの認定審査を行う[3)]。登録栄養士の資格認定条件は，学士以上の学位の取得と900時間以上のインターンシップの修了であり，その達成目標は栄養ケアの実践活動を担える能力を養うことである。大学・大学院の養成プログラムの認定には，認定基準である8領域の知識と技術および46項目の実践能力（competency）に加え，臨床栄養療法等を強化した実

【著者所属】[1)] 聖徳大学，[2)] 日本子ども家庭総合研究所，[3)] 椙山女学園大学，[4)] 静岡県立大学，[5)] 日本歯科大学，[6)] 東海学園大学，[7)] 神奈川県立保健福祉大学，[8)] 東京農業大学，[9)] 千葉県立衛生短期大学，[10)] 浜松労災病院
【著者連絡先】須永美幸
〒271-8555　千葉県松戸市岩瀬550

（原稿受領日 2008年11月20日，原稿受理日 2008年12月12日）

務能力の修得を教育目標とし，これを満たす根拠，適格性ならびに学生のアウトカム評価を含めた自己評価報告書の提示が求められる[3, 4, 5]。認定後も定期的なプログラム評価報告と現地訪問による審査が行われ，継続認定される。養成の教育担当者には，養成プログラムのゴールと学習アウトカムに関して組織的かつ包括的なアセスメントが必要とされ，養成プログラムの継続的な品質改善に努めることが求められる[6]。

登録委員会は，資格認定・登録試験，登録更新を含む生涯教育制度および専門資格認定について管理運営している[7]。認定試験は，コンピュータを用いた出題とし，栄養ケアプロセスとそのモデルが40%と最も多く，実践活動の能力を評価することが目的とされる。登録後は，5年のサイクルで規定単位を履修する生涯教育が登録更新の条件として義務づけられる。登録委員会は，生涯教育のための育成プログラムならびに拡大する市場ニーズに対応した専門資格（老人栄養，小児栄養，腎臓病栄養，腫瘍学栄養，スポーツ栄養）の認定を行い，さらに上級資格の取得を奨励している。登録の開始時は，認定された育成プログラムから自己開発のためのポートフォリオを用いて履修計画，実施，評価を行い，更新時に審査が行われる[8]。

将来の実践業務と教育制度について米国栄養士会特別調査委員会は，10年後に質の高い実践活動を実現するため，新しい教育モデルとキャリアアップシステムを開発し，初任者には5年間の集中的な生涯教育を必須とし，その後の上級資格の取得，育成プログラムの開発・発展および実践活動のためのエビデンスに関する研究を推奨している[9]。

具体的には，2017年を目途として市場ニーズに対応した実践業務と教育制度の将来像として大学院修士課程の新しい教育モデルを奨励し，広範な知識と柔軟な選択肢を持った栄養専門職の育成に取組んでいる。

以上のように，米国における栄養ケアの実践活動のための人材育成は，高度専門職としての大学・大学院における高等教育に位置づけられ，栄養専門職養成の質は，900時間以上のインターンシップによる実践能力の養成を達成目標とし，アウトカム評価を含めた認定や継続審査により維持・向上が図られていることが明らかになった。さらに，資格取得者には登録の更新条件として生涯教育を義務づけることによって質の確保が図られていた。

2．英国

英国で栄養士になるためには，医療職員審議会（HPC）により，承認された大学（学士課程：14校，修士課程：8校）の栄養士科コースで学び，①栄養学（Nutrition），または食事療法学（Dietetics）のコースを修了し，優等学位（Bachelor of science Honours degree in Nutrition and/or Dietetics）を取得するか，②大学院で食事療法学の課程（Postgraduate Diploma : PgDip / or Master of Science : MSc）を修了する必要がある。栄養士はHPCに登録することで，登録栄養士（RD）の資格を与えられる。

現在，HPCへのRD数は，約6,660名である。栄養士として国立健康増進局（NHS : National Health Service）や社会福祉の分野で働くためには，HPCに登録して，RDになることが必要である。HPCにより与えられた職業資格は，法的に保護されており，登録者だけが英国内で，その職業を名乗り業務を行うことができる。RDの約2/3は，国立健康増進局（NHS）の管轄施設（NHS trust）の病院や老人保健施設などで働き，特定の疾病の分野でスペシャリストとなり，さらに管理者へのキャリアを積んでいく。HPCへの登録の更新は2年毎にしなければならない。HPCの定める職能基準を満たしていることを証明するために，2008年度の更新から，継続教育（Continuing Professional Development，CPD）を行ったことを証明する書類の添付が義務付けられた。

英国栄養士会（British Dietetic Association，BDA）は1936年に創設された栄養士の協会である。BDAは会員登録制（正会員：RD，協賛会員：RDから外れた栄養士，準会員：栄養士補助，学生会員：卒業後RDとなることが可能な学生）があり，約5,100名の栄養士が登録している。登録により，BDAの提供する情報，教育コース，求人情報などが利用できるが，この登録には法的な効力はない。栄養士補助（assistant dietitian）は，特に資格や高等学歴も要求されない職種である。通常，RDの指揮下に，病院内や地域社会で働く。しかし，栄養士補助は，栄養士へのキャリアにつながる職業ではない。

以上のように，英国においては，養成校の授業内容ならびに卒後教育について，質が担保されるようなシステムが構築されていることが明らかにされた。栄養専門職をとりまく社会的状況は，英国とわが国では大きく異なるが，わが国における新しい栄養専門職育成制度の創設や，既存の教育システムの見直しなどに，本研究で得られた英国の情報の活用が望まれる。

3．欧州

欧州の高等教育改革は，2010年までに学位システムと単位制度を中心とした共通の枠組みを欧州域内に構

築することを目標としている。この動きは，栄養専門職の教育においても例外ではなく，欧州連合栄養士協会（EFAD）は，栄養専門職の教育と業務実践を一貫するために，栄養士という資格の最低基準として「欧州栄養専門職達成水準」を発表した。さらに，欧州の単位相互認定制度の運用を発展させることを主な目標とした新たなネットワークを設立し，抜本的な教育改革を計画的に推進している。以上より，欧州の栄養専門職の教育改革は，欧州の高等教育統合に伴い，計画的かつ速やかに進められており，わが国における栄養士法に基づく管理栄養士の教育体系を検討していくうえで，今後もこれらの動向を注意深く調査していくことが必要である。

4．フランス

フランスにおける，高等教育の栄養専門職の養成・教育機関は2機関あり[30]，養成・教育機関はいずれも2年間である[31,32]。資格を取得することにより栄養専門職「栄養士（diététicien）」として栄養士業務が遂行できる。資格付与機関は国民教育省であるが国家資格ではない。

フランスでは，2010年までにソルボンヌ宣言（1998年）・ボローニャ宣言（1999年）：ボローニアプロセスに従い[33,34,35]，欧州諸国の高等教育における共通の枠組みLMDシステム（学士課程［Licence］：3年，修士課程［Master］：2年，博士課程［Doctorat］：3年：3-5-8年制）の構築（一部の教育機関を除く）を推進している。栄養士協会は，栄養専門職養成・教育機関にLMDシステムの設置により，国家資格を持った栄養士の人材育成に期待している。

フランスは学歴・資格社会といわれており，資格のない者が就職することは大変困難である。このような社会で栄養専門職養成・教育は技術者としての育成を目的とした職業教育であるといえる。

フランスにおける栄養専門職養成・教育は2年間と短期間であるが，国際栄養士連盟は，栄養士教育は「学士（3年）」レベルの教育が行われている国の協会は国際栄養士連盟の会員として認める声明を出している[36]。このような状況下において，フランスではEUによる欧州統合が進展するなかで高等教育のLMDシステム設置により，栄養専門職養成・教育における今後の改革の動向に注目していく必要があると考える。

5．ドイツ

ドイツでは，就学年齢の低い中等教育Ⅰ修了レベルから専門教育が開始される。栄養士は国から認定された養成学校において養成され，「非学士」であるが医療専門職とみなされている。専門教育は国家試験をもって修了となる。養成期間中に病院または医療機関で行われる臨床研修の時間数が多いなど，実地訓練に教育の主眼が置かれ，食事療法および栄養問題のコンサルティングの専門家として，大学で栄養学を修めた栄養学者と一線を画す評価をされている。また，生涯教育制度は，ドイツ栄養士協会（VDD）を中心に整えられている。ドイツの学校教育制度は独特であるが，栄養士の養成については，実践的教育重視の成果，臨床研修の内容等に，わが国の管理栄養士の養成・生涯教育のあり方を考えるうえで有益な情報が含まれると考えられる。

6．オーストラリア

オーストラリアの栄養専門職は栄養士（dietitian）のみであり，学士課程あるいは大学院修士課程において能力基準（National Competency Standards for Entry-Level Dietitians）をベースとした養成が行われている。

オーストラリアにおける栄養士の認定は，オーストラリア栄養士会（Dietitians Association of Australia, DAA）が行っている。DAAが認定する栄養士養成コースを修了し，DAA正会員となり，DAAの認定実践栄養士（Accredited Practising Dietitian：APD）プログラムに参加する者がオーストラリア国内で栄養士として就業することが可能となり，現在2,741名が認定されている。

オーストラリアにおける栄養士養成は高等教育に位置づけられる。DAAが認定する栄養士養成コースは11大学における学士課程7コース，大学院課程9コース，計16コースである。学士コース，大学院コースともに20週間の専門実務研修（professional practice program）の組み込みが必須とされている。内訳は，10週以上の個別の栄養ケアをマネジメントする実務，4週以上の地域や集団の健康・栄養活動，4週以上の食品・栄養システムマネジメントである。オーストラリアの栄養士は，学術的な専門知識に加えて専門能力の評価を重視している。1993年に8ユニット38要素で構成される栄養士初級レベル能力基準（National Competency Standards for Entry－Level Dietitians）が開発され，栄養士養成コースのカリキュラム構築および認定，専門実務研修における学生評価，現職栄養士の能力評価等に一貫して活用されている。

栄養士の実務を高い水準で保持し，専門性を継続的に発展させることをねらいとして1994年にDAAは